

# こうとう民報

2022年7・8月号 No.209

江東区の職場・地域、議会などくらし・平和を守る運動をご紹介します。

発行 とうとう民報編集委員会  
責任者 猪又 武夫  
住所 江東区東陽2-3-5-203  
電話3648-5155 FAX3648-5137  
ホームページ http://www.koto-minpo.jp/

## 「平和のための戦争展」



主催：南砂団地9条の会など実行委員会

写真と説明など見入る参加者

南砂団地9条の会、日中友好協会などの実行委員会主催する恒例の「江東平和のための戦争展」が8月1日から4日まで江東区文化センター展示ロビーで開催され、猛暑が続く中、一日百人以上が訪れました。江東区と江東区教育委員会が後援しました。

展示物などは毎年、少しずつ増え、日中戦争中に中国の天津から上海、南京、徐州などを転戦した部隊で非公式の写真班だった村瀬守保氏の40枚以上の生々しい写真をはじめ、「第二次世界大戦の真実―原爆と大戦の真実」と銘付った東京大空襲の被災地図や焼け野原、焼死体の山の写真などが目立ちます。

戦時中の大本営発表の新聞記事や出征幟旗なども壁一面に展示され、明治32年の教育勅語や玉音放送のレコード(複製)など貴重な品々もガラスケース内に並べられ、庶民の暮らしに関する陶製の代用キセルや陶器製のお釜、漫画、絵葉書、凱旋歓迎乗車券

7月30日、当時自民党の榎本雄一議員があっせん収賄の容疑で警視庁に逮捕されました。共産党区議団は8月1日、山崎区長と山本議長に対し緊急申し入れを行いました。

榎本議員は昨年、議長を務めていました。これまでに議長を5回も務め、自民党会派内では行政にも議会

員から不正に入札情報入手し、落札した業者に情報を提供した見返りに現金30万円を得たとされています。自らの利益のために、区

いう極めて異常な事態は、江東区議会に対する区民の信頼を著しく失墜させるもので、断じて許されません。共産党区議団は、榎本雄

### 現職区議があっせん収賄容疑で逮捕 金権腐敗の政治の根絶を！

にも最も影響力のある実力者と言われていました。報道によると、区関連施設の清掃業務の指名競争入札にあたって、区の幹部職

民の代表たる議員の立場を利用して、不正に入札情報を得るなど区民を裏切る重大な犯罪行為です。現職議員が逮捕されると

一議員の辞職を求めるとも、行政と議会は捜査機関任せにせず、自ら真相解明と綱紀粛正に取り組むこと、さらに、不正に関わった業者指名停止、行政の関与や他の入札で同様の不正行為がないかどうかを調査・公表するなど、不正防止策の強化に早急に取り組むことを強く求めました。

共産党区議団は、金権腐敗の政治を正し、区民が主人公の区政を実現するために引き続き力を尽くします。

「ウクライナの戦争をおわらせたい」など、多くの来訪者が書き記しています。「貴重な資料は保存していた方々の協力で集め、古書店などでも購入しています」と実行委員長佐久間徹氏。開戦の詔書と終戦の詔書(写し)と一緒に展示するなどの工夫もして、貴重な資料を散逸しないようにすることを強調しています。

「戦後世代が伝える空襲体験」企画もその試みの一つで、学童疎開から戻ってきたばかりの当時小学6年生の少女の体験です。幼児を含む参加者以外に、オンライン参加もありました。

戦災資料センター見学者はコロナ禍で落ち込んでいました。この間増加し、戦争で引き起こされる悲劇に人々の目

東京大空襲・資料センターは8月7日から、夏休み企画「みんなでまなび、伝えよう！」と、①戦争体験の「語り継ぎ」②水戸と東京の高校生のコラボ朗読③紙芝居④空襲体験のお話の4つの企画をネット配信で開催しました。江東区教育委員会が後援しました。

ロシアのウクライナ侵略から半年、今も激しい砲撃や攻撃で民間人犠牲者が多数出ています。

「みんなでまなび、伝えよう！」 主催 東京大空襲・戦災資料センター



オンラインで報告

多数の被災者が総武線の土手に追い込まれ、消火に当たっていた消防士まで焼死。亀戸駅近く貨物線鉄橋下では炎の川となった京葉道路が人々をなめ尽くした様子や道路の真ん中で、立ちすくんだ馬と飼い主がじっと動かず炎に包まれたまま焼け死んでいったことなど切ない体験が、淡々と心を込めて語られました。

暦では、立秋ですが連日の酷暑でコロナ禍に加えて熱中症に脅かされています。▼気候変動で北極が温暖化し、偏西風の蛇行で熱帯高気圧が日本列島近くで重なり、下したため、北日本の長い豪雨と関東の40℃もの高温が生じたといえます▼3月で「まん延防止」解除以降、減少傾向だったコロナ感染者は、7月第3週には96万9千人で世界最多。それでも、3年ぶりに行動制限なしのお盆休みとなりました。その結果、8月19日は一日で26万人超の感染者を記録。死者は17日、過去最多の300人です▼こんな難局に、岸田政権は安倍9条改憲の野望の実現めざし、NATO並みにGDP2%（11兆円）の大軍拡へ踏み込みます。防衛省は来年度の軍事費について「敵基地攻撃能力」のミサイルや無人機、空母など実質6兆円超の概算要求を予定しています▼「世界平和国会議員連合」（名誉会長細田博文）は安倍政権下で発足。反社会的カルト集団の政治団体「勝共連合」は、60年代の岸信介も所属していました。安倍元首相の銃撃事件から自民党議員と統一協会の癒着が次々と暴かれ、8月10日の内閣改造もその関係を一層明確にする皮肉な結果。その上に、法的根拠のない「安倍氏国葬」で国民に弔意を強制しようとする閣議決定で、墓穴を掘っています。

江東区労連

コロナ問題に労働組合はどう取り組んだ？  
都内と江東区内の労働相談事例を学習

新型コロナウイルス感染症が3月から急速に感染拡大し、多くの事業者が休業や廃業・倒産に追い込まれ、「補償なき休業」で多くの労働者が苦境におちいる中、江東区労連は7月29日、東京地評の柴田和啓副議長を講師に「労働組合はコロナ問題にどう取り組んだか？」学習・交流会を、労働相談員養成講座を兼ねて江東区文化センターで開催しました。

柴田氏はコロナ禍により「泣き寝入りしない相談者」都内の労働相談が4月から急激に増加し、正規・非正規、企業規模に関わらず相談が寄せられている中で、



「泣き寝入りしない相談者」が出てきていることも特徴として指摘しました。そして、コロナ禍の中で見えてきたことは「雇用調整助成金では暮らせない」「派遣切りの横行」「休業補償なしのシフト制勤務の悲劇」「内定取り消しや企業閉鎖に伴う失業」などで、その最大の理由は「労働者派遣法はじめ雇用破壊を進めた労働政策にある」と柴田氏は断じました。

区労連に寄せられた労働相談の報告は、コロナ関連では「子どもが休校のため休暇を申請したら退職と職員寮からの退去を求められた」「派遣でコロナを理由に雇い止め」「時短勤務と賃金カット」「在宅勤務で仕事がない者は有給休暇をとれと言われた」「正社員からパートへ格下げ」「解雇」など多様です。

3月以降  
5人が組合に加入

区労連の活動報告では、打ち合わせも集まると密になるジレンマの中、「運動をどう作っていくか」に力を注ぎました。

経営側とパソコン画面でやりとりすることも行い、前年より増えている過去1年間の労働相談に対応した結果、新たに14人が労働組合に加入し、特に今年3月からは5人を新組合員に迎え入れたことが紹介されました。

新婦人支部大会開かれる

新型コロナウイルス禍のため延期となっていた新日本婦人の会江東支部大会が、7月19日に江東区文化センターで開催され、各班から選出された代議員が参加しました。

大会は木村登美江事務局長の議案提案の後、討論で各班の取り組みや会員の活動報告が行われました。ある班では、新型コロナウイルスで、これまでのように親子で集まって、親子リズムや絵遊びなどで賑やかに交



流することができないため、インターネットのオンライン交流アプリを活用して、絵本の読み聞かせや、休校中の小学生の学習中心の自宅学習などを6回にわたって行った経験が報告されました。

また、医療従事者の会員からは、3月から急速に医療現場がひっ迫し、4月、5月は過労死ラインと言われる月80時間以上の残業となったこと、防護服をいったん着ると、4時間以上の作業中、トイレも水分補給もできない危険な状態であることなどが生々しく報告されました。

江東区でも「平和の波」!



新婦人江東支部

区教育委員会定例会が8月21日、教育センターで開催され、14日に引き続き2021年度から区立中学校で使用予定の教科書が採択されました。この日は区民・業者52人が傍聴のために参加し、抽選の結果20人が傍聴しました。

育鵬社、自由社の教科書不採択

区教育委員会定例会が8月21日、教育センターで開催され、14日に引き続き2021年度から区立中学校で使用予定の教科書が採択されました。この日は区民・業者52人が傍聴のために参加し、抽選の結果20人が傍聴しました。協議は各教科ごとに、事務局説明の後「採択資料作成委員会結果報告書」の内容を4人の教育委員が紹介

「被爆75年核兵器のない平和で公正な世界を」と「平和の波」が8月6、9日取り組まれ、江東区では6日、江東区文化センター前で宣伝と署名活動がおこなわれました。

★ 行事日程 ★

○9月6日(日) 13時

◆亀戸事件97周年追悼会

※浄心寺では式典は行いません。

○9月13日(日) 14時

◆江東区民会館第75回定期総会

○9月26日(土) 16時

◆地域労組「こうとう」定期総会

※総合区民センター

※総合区民センター

※総合区民センター

改訂 江東風土記抄 (23)

第2部 深川南西部  
3. 門前仲町・富岡



「八幡橋」国指定重要文化財(建造物)

1931(昭和6)年、富岡公園地、富岡門前町、門前東仲町、数矢町が富岡町に。門前仲町、門前山本町、蛤町、黒江町の一部が合併して門前仲町となりました。

江戸時代には、富岡と門前仲町を東西に横ぎる道路を永代通り、隅田川の橋を永代橋というように、1692(元禄5)年に富岡八幡の別当寺院(八幡宮を創建した長盛上人の住居)となる永代寺の門前町でした。その永代寺は明治維新の廃仏毀釈で廃寺、吉祥院がその名を継いでいます。

深川不動は、1703(元禄16)年に成田山が永代寺で出開帳したのがおこりで、不動信仰の厚かった5代目尾上菊五郎の碑があります。

1642(寛永19)年、京都の三十三間堂にない、江戸三十三間堂が浅草につくられ、1698(元禄11)年に富岡八幡の東隣に再建されましたが、1872(明治5)年に廃寺。通し矢数の競争から数矢小学校にその名がつけられています。

八幡橋は、1878(明治11)年に東京府が赤羽製作所につくらせた長さ15.2mの都内最古の鉄橋で、京橋の楓川にかけられた弾正橋だったものが、1929(昭和4)年に現在地に移され、国の重要文化財です。

門前仲町交差点の北側一帯は、1716~36年の享保年間から料理茶屋や置屋などの花街として栄え、ここの芸者は辰巳芸者と呼ばれました。近くに伊能忠敬が住んでいました。

1772~81年の安永年間に、富岡2丁目の舞台用かつらの女職人に仲町の芸妓が髪を結わせたのが女髪結いの始まりで、1868(明治元)年に布施雄二らが仲町1丁目に、温泉地から湯の花をとりよせた浴場をつくったのが近代浴場のおこりです。

大横川辺の臨海公園では、毎年10月上旬に「深川の力持」、その先の黒船橋付近で「木場の角乗り」が公開されます。

1967(昭和42)年には、地下鉄工事現場で地下壕に白骨化した6体の戦災遺骨が発見されました。